

常三島遺跡 3

— 地域連携プラザ地点・フロンティア研究センター地点 —

2017

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

常三島遺跡 3

— 地域連携プラザ地点・フロンティア研究センター地点 —

2017

国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室

序 文

本学では、常三島キャンパスと総合グラウンドの地下に所在する遺跡を独自に、常三島遺跡と呼んでいます。今日、私たちが遺跡とみなしている、この場所は、近世の絵図や古文書によれば、徳島城下町を形成する六つの島のうち、主として中・下級武士が居住した「常三島」にあたるのが分かります。こうした認識に立って、常三島遺跡の発掘調査は、本調査室が設置されてすぐの1992年に始まり、これまで21次にわたって実施されてきました。その結果、近世常三島の武家屋敷の実態が徐々に明らかとなりつつあります。

さて、本書は、2013年に実施した常三島遺跡第19・20次調査（地域連携プラザ地点・フロンティア研究センター地点）の発掘調査報告書です。地域連携プラザ地点では、東西方向に走る屋敷境の溝が発見されました。こうした溝は、これまでの調査でもたびたび見つかっており、研究者のあいだで活発な議論を巻き起こしてきました。現在は、屋敷境溝が掘削された理由を、治水対策に求める説が有力です。フロンティア研究センター地点では、池状遺構の中から、生活用水を利用するための階段・足場とみられる石組み遺構が検出されました。こうした性格の遺構が発見されたのは、常三島遺跡では初めてです。いずれの発見も、常三島に住んだ武士たちの生活や知恵を鮮やかに復元する資料として、注目されます。

常三島遺跡の報告書は本書で3冊目となりますが、2冊目を刊行してから、すでに10年以上が経過してしまいました。そういうこともあって、本書には先に述べた2地点の調査報告だけでなく、これまでの調査成果の総括的な内容を盛り込んだつもりです。CADソフトウェアを使用して、遺構の変遷図を作成したのも、そうした試みのひとつです。新たな方法や技術を積極的に導入することで、報告書作成作業の合理化や効率化を図っていくことも、今後の調査室に求められていると考えます。

最後とはなりましたが、発掘調査、整理作業、そして本書の刊行にあたって、ご協力・ご助言を賜った学内外の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。今後、本書と報告資料が、徳島城下町跡の調査研究、近世考古学・近世史研究、さらには徳島という地域社会での文化財の保存・活用の一助となることを祈願します。

平成29年3月31日

徳島大学埋蔵文化財調査室長

端 野 晋 平

例 言

1. 本書は、国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室が2013年度に実施した、本学常三島キャンパスにおける地域連携プラザ新営、フロンティア研究センター新営に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 整理作業は、端野晋平・三阪一徳・脇山佳奈・岸本多美子・久米淑子・中原尚子・板東美幸・古川裕美・前田千夏・安山かおり・山本愛子が担当した。
3. 遺構写真の撮影は端野・遠部慎（現・久万高原町教育委員会）・山口雄治（現・岡山大学）が、遺物写真の撮影は板東が担当した。遺物観察表の作成は、第2・3章の陶磁器・土器・土製品を安山が、第2章の金属製品・ガラス製品・瓦・石製品を脇山が、第3章の金属製品・ガラス製品・瓦・石製品・骨製品を三阪が担当した。金属製品のX線写真撮影は、植地岳彦氏（当時・徳島県埋蔵文化財センター、現・徳島県立博物館）にお願いした。
4. 本書の執筆分担は、目次と本文中に示した通りである。木製品の樹種同定は、中原計氏（鳥取大学）に依頼し、玉稿を賜った。記して感謝申し上げる。
5. 本書の編集は、端野が行った。
6. 本書で使用した座標の値は、世界測地系による平面直角座標系（第IV系）に準拠した。方位は座標北、レベルは海拔標高である。
7. 土層および土器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠した。
8. 陶磁器・土器の製作年代を決定するに際しては、以下の文献（五十音順）を参照した。
扇浦正義，2000. 現川. 九州陶磁の編年. 九州近世陶磁学会，有田. pp.304-309.
大成可乃，2011. 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2）. 東京大学構内遺跡調査研究年報7. 東京大学埋蔵文化財調査室. 223-313.
大橋康二，1988. 十七世紀後半における肥前系磁器の銘款について. 青山考古6. 25-37.
大橋康二，1989. 18世紀における肥前系磁器の銘款について. 東洋陶磁17. 67-74.
大橋康二，1990. 肥前磁器の変遷－技法と器形からみた－. 柴田コレクション展Ⅰ. 佐賀県立九州陶磁文化館，有田. pp.227-238.
大橋康二，1991. 肥前磁器の変遷－文様を中心として－. 柴田コレクション展Ⅱ 資料編. 佐賀県立九州陶磁文化館，有田. pp.87-95.
大橋康二，2001. 肥前陶磁. ニュー・サイエンス社，東京.
大橋康二，2004. 世界をリードした磁器窯・肥前窯. 新泉社，東京.
小川裕司，2012. 雑司が谷遺跡出土の飯碗についての予察. 雑司が谷Ⅶ. 都道整備事業関連豊島区遺跡調査団，東京. pp.99-112.
金子健一，2006. 近世都市出土の瀬戸・美濃. 江戸時代の瀬戸・美濃－三都と名古屋－. (財)瀬戸市文化振興財団，瀬戸. pp.70-76.
日下正剛，2002. 大谷焼の生産と流通. 関西近世考古学研究Ⅹ. 17-34.

- 柴田明彦, 1998. 有田磁器の技法. 柴田コレクションⅥ 江戸の技術と装飾技法. 佐賀県立九州陶磁文化館, 有田. pp.256-269.
- 下中直人(編), 2000. 増補 やきもの事典. 平凡社, 東京.
- 白神典之, 1990. 堺摺鉢と明石摺鉢. 江戸遺跡研究会第3回大会 江戸の陶磁器 発表要旨. 江戸遺跡研究会, 東京. pp.47-51.
- 白神典之, 1990. 堺摺鉢と明石摺鉢. 江戸遺跡研究会第3回大会 江戸の陶磁器 資料編. 江戸遺跡研究会, 東京. pp.123-144.
- 鈴木良章(編), 1993. シンポジウム「信楽焼と京焼」. 信楽町教育委員会, 信楽.
- 鈴木由紀夫, 1995. 17世紀末から19世紀中葉の銘款と見込み文様. 柴田コレクションⅣ 古伊万里様式の成立と展開. 佐賀県立九州陶磁文化館, 有田. pp.272-279.
- 高島裕之ほか, 2009. 有田・南川原窯ノ辻窯跡出土の陶磁器. 駒澤考古34. 39-54.
- 高橋洋二(編), 1988. 別冊太陽 古伊万里. 平凡社, 東京.
- 田口昭二, 1983. 美濃焼. ニュー・サイエンス社, 東京.
- 長佐古真也, 1991. 瀬戸美濃産「太白焼」小考. 東京都埋蔵文化財センター研究論集X. 405-418.
- 長佐古真也, 1996. “江戸”遺跡に流通する量産陶器碗の編年 (Ver. 2.1). シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ 発表要旨. 江戸陶磁土器研究グループ, 東京. pp.69-83.
- 中野雄二, 2000. 波佐見. 九州陶磁の編年. 九州近世陶磁学会, 有田. pp.254-289.
- 中野雄二, 2010. 波佐見くらわんか茶碗のひろがり. 金大考古66. 17-24.
- 成瀬晃司・堀内秀樹, 1990. 消費遺跡における陶磁器の基礎的操作と分析. 東京大学遺跡調査室(編), 東京大学本郷構内の遺跡 医学部附属病院地点. 東京大学医学部附属病院, 東京. pp.821-860.
- 成瀬晃司, 1992. 磁器碗・皿の分類. シンポジウム 江戸出土の陶磁器・土器の諸問題Ⅰ 発表要旨. 江戸出土陶磁土器研究グループ, 東京. pp.14-22.
- 難波洋三, 1992. 徳川氏大坂城期の炮烙. 難波宮址の研究 第九(本文). (財)大阪市文化財協会, 大阪. pp.373-400.
- 乗岡実, 2002. 近世備前焼挿鉢の編年案. 岡山城三之曲輪跡. 岡山市教育委員会, 岡山. pp.190-197.
- 長谷川真, 2004. 甕類にみる近世丹波焼. 関西近世考古学研究Ⅱ. 関西近世考古学研究会, pp.1-23.
- 藤澤良祐, 1998. 近世瀬戸磁器編年の再検討. 植崎彰一先生古希記念論文集刊行会(編), 植崎彰一先生古希記念論文集. 真陽社, 京都. pp.377-388.
- 北條ゆうこ, 1998. 近世阿波のしめなわ文茶碗. 徳島県立博物館研究報告8. 67-93.
- 北條ゆうこ, 2002. しめなわ文茶碗再考. 論集 徳島の考古学. 徳島考古学論集刊行会, 徳島. pp.765-779.
- 堀内秀樹, 1992. 東京大学本郷構内の遺跡統一編年試案. シンポジウム 江戸出土の陶磁器・土器の諸問題Ⅰ 発表要旨. 江戸出土陶磁土器研究グループ, 東京. pp.39-57.
- 堀内秀樹, 1992. (付)実年代を推定できる主な技法、文様、銘款. シンポジウム 江戸出土の陶磁器・土器の諸問題Ⅰ 発表要旨. 江戸出土陶磁土器研究グループ, 東京. pp.23-28.
- 村上伸之, 2004. 唐津焼の成立と初期の窯業. 古唐津. 出光美術館, 東京. pp.178-186.
- 村上伸之, 2006. 肥前 生産に関わる技術の成立と展開を中心に. 江戸時代のやきものー生産と流通ー 記念講演会・シンポジウム資料集. (財)瀬戸市文化振興財団 埋蔵文化財センター, 瀬戸. pp.69-88.
- 盛峰雄ほか, 2000. 肥前(佐賀県)の製品について. 九州陶磁の編年. 九州近世陶磁学会, 有田. pp.10-249.
- 森本伊知郎, 2009. 近世陶磁器の考古学. 雄山閣, 東京.
- 明石市立文化博物館(編), 1994. 明石城武家屋敷跡Ⅰ. 明石市教育委員会, 明石.
- 江戸遺跡研究会(編), 2001. 図説 江戸考古学研究事典. 柏書房, 東京.
- (財)瀬戸市埋蔵文化財センター(編), 2001. 瀬戸大窯とその時代. (財)瀬戸市埋蔵文化財センター,

瀬戸.

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター(編), 2002. 江戸時代の瀬戸窯. (財)瀬戸市埋蔵文化財センター, 瀬戸.

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター(編), 2003. 江戸時代的美濃窯. (財)瀬戸市埋蔵文化財センター, 瀬戸.

佐賀県立九州陶磁文化館(編), 2004. 古伊万里の見方 シリーズ1種類. 佐賀県立九州陶磁文化館.

滋賀県立安土城考古博物館(編), 2009. 大信楽焼展－出土資料を中心に－. 滋賀県立安土城考古博物館, 近江八幡.

瀬戸市史編纂委員会(編), 1993. 瀬戸市史 陶磁史篇五. 愛知県瀬戸市, 瀬戸.

瀬戸市史編纂委員会(編), 1998. 瀬戸市史 陶磁史篇六. 愛知県瀬戸市, 瀬戸.

東京大学埋蔵文化財調査室(編), 1999. 東京大学構内遺跡調査研究年報2 別冊 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類 (1). 東京大学埋蔵文化財調査室, 東京.

土岐市美濃陶磁歴史館(編), 2004. 織部の流通圏を探る 西日本. 土岐市美濃陶磁歴史館, 土岐.

豊島区遺跡調査会(編), 1998. 陶磁器・土器分類・計測基準. 伝中・上富士前Ⅱ 別冊. 豊島区教育委員会, 東京.

波佐見町教育委員会(編), 1993. 波佐見町内古窯跡群調査報告書. 波佐見町教育委員会, 波佐見.

萬古陶磁器振興協同組合連合会(編), 2010. よくわかる四日市萬古焼読本. 萬古陶磁器振興協同組合連合会, 四日市.

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所(編), 2005. 珉平焼窯跡. 兵庫県教育委員会, 神戸.

9. 本書に掲載した調査記録および出土遺物は、すべて本調査室で保管している。今後、研究・教育の場で積極的に活用されることを期待する。

10. 発掘調査・整理作業にあたっては以下の方々にご指導・ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

東潮、氏家敏之、大北和美、勝浦康守、近藤玲、塚本章宏、中村豊、西本沙織、根津寿夫、平井松午（敬称略・五十音順）。

目 次

第1章 歴史的・地理的環境	端野 晋平	1
第1節 遺跡の位置と歴史的環境		1
第2節 常三島遺跡の概要		3
第2章 第19次調査（地域連携プラザ地点）	端野 晋平	15
第1節 調査の経過と概要		15
1. 調査に至る経緯		15
2. 調査組織		15
3. 調査の経過		15
4. 調査の概要		16
第2節 調査の記録		16
1. 調査地点の位置		16
2. 基本層序		18
3. 遺構と遺物		18
4. 包含層出土遺物		22
第3章 第20次調査（フロンティア研究センター地点）		79
第1節 調査の経過と概要	端野 晋平	79
1. 調査に至る経緯		79
2. 調査組織		79
3. 調査の経過		79
4. 調査の概要		80
第2節 調査の記録		81
1. 調査地点の位置	端野 晋平	81
2. 基本層序	端野 晋平	83
3. 第2遺構面の遺構と遺物	三阪 一徳・端野 晋平	83
4. 第1.5遺構面の遺構と遺物	脇山 佳奈	113
5. 第1遺構面の遺構と遺物	脇山 佳奈	133
6. 包含層出土遺物	端野 晋平	180

第4章	木製品の樹種同定と年代測定	201
第1節	常三島遺跡第19・20次調査出土木製品の樹種	中原 計 … 201
1.	試料内容	201
2.	同定方法	201
3.	同定結果と考察	201
第2節	常三島遺跡第19次調査出土杭の放射性炭素年代測定	加速器分析研究所 … 205
1.	測定対象試料	205
2.	測定の意義	205
3.	化学処理工程	205
4.	測定方法	205
5.	算出方法	205
6.	測定結果	206
第3節	常三島遺跡第20次調査出土桶（タガ）の放射性炭素年代測定	
	……………伊藤 茂・安昭 炫・佐藤 正教・廣田 正史・	
	山形 秀樹・小林 紘一・Zaur Lomtadze・黒沼 保子 …	208
1.	はじめに	208
2.	試料と方法	208
3.	結果	208
4.	考察	209
第5章	総 括	端野 晋平 … 211

挿 図 目 次

第1図	吉野川下流域の地形分類図	1	第36図	包含層出土遺物 (13)	41
第2図	常三島遺跡の位置	2	第37図	包含層出土遺物 (14)	42
第3図	常三島遺跡の発掘調査地点	4	第38図	包含層出土遺物 (15)	43
第4図	工学部実習棟地点の屋敷境溝	6	第39図	包含層出土遺物 (16)	44
第5図	工学部電気電子棟地点の舟入状遺構	8	第40図	包含層出土遺物 (17)	45
第6図	『徳島藩領国図屏風』安宅島部分拡大	9	第41図	包含層出土遺物 (18)	46
第7図	地域共同研究センター棟地点の埋納遺構と 出土遺物	9	第42図	包含層出土遺物 (19)	47
第8図	地域共同研究センター棟地点出土の しめなわ文茶碗	10	第43図	包含層出土遺物 (20)	48
第9図	しめなわ文茶碗をめぐる威信財交換モデル	11	第44図	包含層出土遺物 (21)	49
第10図	地域共同研究センター棟地点出土の 投網用錘鋳型	12	第45図	包含層出土遺物 (22)	50
第11図	工学部光応用工学科棟地点の火葬墓の位置	13	第46図	包含層出土遺物 (23)	51
第12図	作業風景	15	第47図	包含層出土遺物 (24)	52
第13図	調査地点の位置	17	第48図	包含層出土遺物 (25)	53
第14図	調査区西壁土層断面	19	第49図	包含層出土遺物 (26)	54
第15図	調査区西壁土層断面写真	20	第50図	包含層出土遺物 (27)	55
第16図	検出遺構全体図	21	第51図	包含層出土遺物 (28)	56
第17図	調査地点全景	22	第52図	包含層出土遺物 (29)	57
第18図	SD1 土層断面 (調査区東壁)	23	第53図	包含層出土遺物 (30)	58
第19図	SD1 完掘状況	24	第54図	包含層出土遺物 (31)	59
第20図	SD1 上層出土遺物	26	第55図	包含層出土遺物 (32)	60
第21図	SD1 下層出土遺物	26	第56図	包含層出土遺物 (33)	61
第22図	SA1 検出状況・土層断面	27	第57図	包含層出土遺物 (34)	62
第23図	SA1 に用いられた杭	28	第58図	包含層出土遺物 (35)	63
第24図	包含層出土遺物 (1)	29	第59図	作業風景	79
第25図	包含層出土遺物 (2)	30	第60図	調査地点の位置	82
第26図	包含層出土遺物 (3)	31	第61図	調査区南壁土層断面	83
第27図	包含層出土遺物 (4)	32	第62図	第2遺構面全体図	84
第28図	包含層出土遺物 (5)	33	第63図	SG401 土層断面 a-a'	85
第29図	包含層出土遺物 (6)	34	第64図	SG401 土層断面 b-b'	86
第30図	包含層出土遺物 (7)	35	第65図	SG401 土層断面 c-c'	87
第31図	包含層出土遺物 (8)	36	第66図	SG401 土層断面 d-d'	88
第32図	包含層出土遺物 (9)	37	第67図	SG401 土層断面 e-e'	88
第33図	包含層出土遺物 (10)	38	第68図	SG401 出土遺物	89
第34図	包含層出土遺物 (11)	39	第69図	SX402 (1)	92
第35図	包含層出土遺物 (12)	40	第70図	SX402 (2)	93
			第71図	SX402 木杭検出状況	94
			第72図	SX402 木桶検出状況	94
			第73図	SX402 遺物出土状況 (階段状部分)	95

第 74 図	SX402 遺物出土状況 (積石状部分)	95	第 116 図	SK99 出土遺物	147
第 75 図	SX402 盛土出土遺物	96	第 117 図	SK116 出土遺物	147
第 76 図	SX402 出土遺物 (1)	98	第 118 図	第 1 遺構面検出遺構 (6)	149
第 77 図	SX402 出土遺物 (2)	99	第 119 図	第 1 遺構面検出遺構 (7)	151
第 78 図	SX402 出土遺物 (3)	100	第 120 図	第 1 遺構面検出遺構 (8)	153
第 79 図	SX402 出土遺物 (4)	101	第 121 図	第 1 遺構面検出遺構 (9)	155
第 80 図	SX402 出土遺物 (5)	102	第 122 図	第 1 遺構面検出遺構 (10)	157
第 81 図	SX402 出土遺物 (6)	103	第 123 図	SK123 出土遺物	158
第 82 図	SX402 出土遺物 (7)	104	第 124 図	SK124 出土遺物	158
第 83 図	第 2 遺構面検出遺構 (1)	107	第 125 図	SK189 出土遺物	158
第 84 図	第 2 遺構面検出遺構 (2)	109	第 126 図	SK191 出土遺物	158
第 85 図	第 2 遺構面検出遺構 (3)	111	第 127 図	第 1 遺構面検出遺構 (11)	161
第 86 図	SK330 出土遺物	112	第 128 図	第 1 遺構面検出遺構 (12)	163
第 87 図	SK398 出土遺物	112	第 129 図	第 1 遺構面検出遺構 (13)	165
第 88 図	第 1.5 遺構面全体図	114	第 130 図	第 1 遺構面検出遺構 (14)	167
第 89 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (1)	115	第 131 図	第 1 遺構面検出遺構 (15)	168
第 90 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (2)	117	第 132 図	SK192	169
第 91 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (3)	119	第 133 図	SK192 出土遺物 (1)	170
第 92 図	SK260 炭化木材検出状況 (北から)	120	第 134 図	SK192 出土遺物 (2)	171
第 93 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (4)	121	第 135 図	SK192 出土遺物 (3)	172
第 94 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (5)	123	第 136 図	SK192 出土遺物 (4)	173
第 95 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (6)	125	第 137 図	SK198 出土遺物	175
第 96 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (7)	127	第 138 図	SK207 出土遺物	175
第 97 図	第 1.5 遺構面検出遺構 (8)	129	第 139 図	第 1 遺構面検出遺構 (16)	176
第 98 図	SK343	131	第 140 図	SK208 出土遺物	177
第 99 図	SK292 出土遺物	132	第 141 図	SK211 出土遺物	177
第 100 図	SK312 出土遺物	132	第 142 図	第 1 遺構面検出遺構 (17)	178
第 101 図	SK343 出土遺物	132	第 143 図	SK212 出土遺物	179
第 102 図	第 1 遺構面全体図	134	第 144 図	包含層出土遺物 (1)	182
第 103 図	第 1 遺構面検出遺構 (1)	135	第 145 図	包含層出土遺物 (2)	183
第 104 図	SD206 出土遺物	137	第 146 図	包含層出土遺物 (3)	184
第 105 図	SK03 出土遺物	137	第 147 図	包含層出土遺物 (4)	185
第 106 図	SK04 出土遺物	139	第 148 図	包含層出土遺物 (5)	186
第 107 図	SK35 出土遺物	139	第 149 図	包含層出土遺物 (6)	187
第 108 図	SK162 出土遺物	139	第 150 図	包含層出土遺物 (7)	188
第 109 図	SK55 出土遺物	139	第 151 図	包含層出土遺物 (8)	189
第 110 図	第 1 遺構面検出遺構 (2)	141	第 152 図	包含層出土遺物 (9)	190
第 111 図	第 1 遺構面検出遺構 (3)	143	第 153 図	包含層出土遺物 (10)	191
第 112 図	第 1 遺構面検出遺構 (4)	145	第 154 図	包含層出土遺物 (11)	192
第 113 図	第 1 遺構面検出遺構 (5)	146	第 155 図	包含層出土遺物 (12)	193
第 114 図	SK61 出土遺物	147	第 156 図	包含層出土遺物 (13)	194
第 115 図	SP81 出土遺物	147	第 157 図	包含層出土遺物 (14)	195

第 158 図	常三島遺跡第 19 次調査出土木製品の 顕微鏡写真	203
第 159 図	常三島遺跡第 20 次調査出土木製品の 顕微鏡写真	204
第 160 図	暦年較正年代グラフ	207
第 161 図	暦年較正結果	210

第 162 図	常三島遺跡の主要遺構 (I 期)	215
第 163 図	常三島遺跡の主要遺構 (II 期)	217
第 164 図	常三島遺跡の主要遺構 (III 期)	219
第 165 図	常三島遺跡の主要遺構 (IV 期)	221
第 166 図	常三島遺跡第 14 次調査地点の遺構	223

表 目 次

第 1 表	常三島遺跡発掘調査一覧	5
第 2 表	包含層遺物観察表 (1)	64
第 3 表	包含層遺物観察表 (2)	65
第 4 表	包含層遺物観察表 (3)	66
第 5 表	包含層遺物観察表 (4)	67
第 6 表	包含層遺物観察表 (5)	68
第 7 表	包含層遺物観察表 (6)	69
第 8 表	包含層遺物観察表 (7)	70
第 9 表	包含層遺物観察表 (8)	71
第 10 表	包含層遺物観察表 (9)	72
第 11 表	包含層遺物観察表 (10)	73
第 12 表	包含層遺物観察表 (11)	74
第 13 表	包含層遺物観察表 (12)	75
第 14 表	包含層遺物観察表 (13)	76
第 15 表	包含層遺物観察表 (14)	77
第 16 表	包含層遺物観察表 (15)	78
第 17 表	SG401 遺物観察表	90
第 18 表	SX402 盛土遺物観察表	97

第 19 表	SK192 遺物観察表 (1)	173
第 20 表	SK192 遺物観察表 (2)	174
第 21 表	包含層遺物観察表 (1)	195
第 22 表	包含層遺物観察表 (2)	196
第 23 表	包含層遺物観察表 (3)	197
第 24 表	包含層遺物観察表 (4)	198
第 25 表	包含層遺物観察表 (5)	199
第 26 表	包含層遺物観察表 (6)	200
第 27 表	常三島遺跡第 19・20 次調査出土木製品一覧	202
第 28 表	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正)	207
第 29 表	放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、 暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)	207
第 30 表	測定試料および処理	208
第 31 表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	209
第 32 表	常三島遺跡の主要遺構一覧 (1)	224
第 33 表	常三島遺跡の主要遺構一覧 (2)	225
第 34 表	常三島遺跡の主要遺構一覧 (3)	226